

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490

FAX (078) 361-4539

http://nssk-kobeshoten.org/ 振替口座 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか？」と誘える教会を目指そう。

努力目標

- ◎主日礼拝を大切に守ろう。
- ◎信徒一人ひとり教会活動に参画しよう。
- ◎地域との交流促進。

聖語 あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を
尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

(申6:5)

教会記念日説教 (抜粋)

さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。(マタイ25章34節)

主教 アンデレ 中村 豊

本日は教区主教として最後の巡錫のために、この教会に参りました。主教となって12年の年月が経過しましたが、この間、教区の人たちの暖かいご支援と祈りより、何とか今日まで務めを果たすことができましたことを皆様に感謝申し上げます。

また、本日はこの後、2名の方が堅信の恵みに与りますが、皆様と共に喜び申し上げます。

時と場所を越えて

さて本日もやはり、キリストの昇天について、皆様と共に少しばかり考えてみたいと思います。

ほとんどのキリスト教の幼稚園・保育園では、毎週1回はチャプレンが園児に聖書の話を読みます。ある時、園児が「神様って、みんなの願いを聞くことが本当に出るのですか」と質問しました。「私たちが信じている神様は、同じ時間に多くの人たちが求めている事柄をどのようにして聞くことができるのですか」というのが園児の疑問なのです。

10人もの人たちが、願いを聞いて貰うために一斉に口を開いた時、聖徳太子はそれぞれが言っ



たことを聞き分けて、一人ひとりに的確な返答をしたという言い伝えがありますが、神様のそれは、聖徳太子の比ではありません。

2008年3月、横浜教区の遠藤主教が逝去されました。お葬式に参りましたが、祭壇には写真が置かれておりませんでした。その代わりでしょうか、もしも望むのであれば、葬送式一時間前に聖堂に来て頂き、最後のお別れをしてくださいという遺族の意向が伝えられました。

高齢化した方が逝去された場合、どの写真を飾ればよいのか苦慮することがしばしば起こります。亡くなった時の写真にするのか、20年前のものを使用するのか、

思案してしまいます。

その写真が亡くなる直前の場合どうなるのでしょうか。お葬式には亡くなられた方の、色々な時代の友人も出席する可能性があります。例えば、大学を卒業してから音信不通であった、仲良くしていた同級生が葬儀に参列し、飾られた写真を見たとき、それが本人であることが果たして判るのでしょうか。

数年前に亡くなられた女性信徒は、20代に結婚してすぐに夫を亡くしました。それから40年の歳月が過ぎました。家庭を訪問し、夫の話になったとき、彼女の最大の心配は、「私が天国に召され夫と再会するとき、果たして夫は私を解るのでしょうか」ということでした。年齢差は母親と子ども以上の40歳以上になるのです。

キリストは今から2000年前のパレスチナ地方で生まれ、35歳位までそこで生活され、十字架にかかって死なれた方であり、つまり、私たちと同じく時間に縛られた存在であった方でありました。

ある特定の時期にこの地上に存在したのです。そうしない限り、私たちは神様が人間や自然をどのように思って居られたかを理解することができなかつたからなのです。

そして、天に昇ることによって時と場所を越えた存在であることを明らかにされた、というのがキリストの昇天の重要な意味なのです。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
" 9時15分 教会学校
" 10時30分 聖餐式・説教
午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
土 午前10時30分 教会掃除
(ご奉仕をお願いします)

私たちは過去から現在、そして未来に向かって動いておりますが、昇天のキリストは、永遠に今ある存在として時間を超越して生きておられます。ですから何百万人の人たち一人ひとりの祈りや願いに耳を傾けることがおできになります。

そして私たち一人ひとりも、少なくとも私の願いや祈りだけはきっと神様が聞いてくださることが間違いないことだと確信して良いのです。この確信がない限り、私たちは祈ることはできません。

今から20年前、ヘルニアの手術を国立病院で受けましたが、入院中、看護師さんは私にとって天使のように写りました。他にケアしなければならぬ患者さんが沢山ありますが、看護師さんは私だけには特別に配慮してくださっている、と勝手に思うのです。ところが手術後1週間経ち、体が普段の状態に戻ったとき、看護師さんは私のことを見向きもしてくれませんでした。健康な体の人に看護師さんはケアする必要はないのです。

私は毎朝、黙想のときを持ちますが、健康な心になったことは今まで一度も経験しておりません。あのこと、このことが自分の心にひっかかりを与えて、そのことを神様に祈ります。きっと、聞いて下さると思っっているからです。

終りはどのように来るのか

昇天に関し、もう一つ重要なことは過去、現在、そして未来に向かって歩む私たちには必ず終わりがやってくるということです。そして時が経つに従って、それが現実味を帯びるという当たり前の事実です。

それでは、終わりはどのようにしてやってくるのでしょうか。

4、5年前、カトリック教会のシスター高木をお招きして神戸聖ミカエル教会で講演会が開催されました。お話の後、同じような質問を参加者に投げかけました。私にも向けられ

ましたので、終わりはこちらからやってくると答えました。主教職が定年により終わるとというのが私の念頭にあって、退職後にもその役目を担うことはあり得ないというのがその理由でした。しかしシスターは、終わりは向こうから突然にやってくるとおっしゃいました。

若い人たち、とくに学生は、これからどのような職業について社会や人びとのために貢献するか、という夢や希望を抱いております。

しかし高齢者になっても同じような夢や希望を抱くことが可能かどうかです。「信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。(Iコリント13:13)」と聖パウロがコリントの信徒への手紙Iで述べていますが、歳を取れば取るほど、物事に対する強い信念や希望がなくなってしまう。

神を信じる高齢者こそ、永遠なるものについての意味を深く考える必要があると思います。私たちに終わりがありますが、始めがあったから終わりがあります。今日まで私たち一人ひとりが本当に神の御心にかなった生活を送ってきたのか、そこに大きな罪や過ちがなかったかどうか、この辺の反省や悔い改めが永遠の命にあずかるための出発点となります。

「竹の十字架」について

それでは国家単位ではどうなるのでしょうか。戦前・戦中、東アジアの国々にたいして、様々な負の事実をなおざりにして、将来について語る事ができるのでしょうか。そこに懺悔と悔い改めと和解が求められるのです。それによって始めて、負の遺産を過去へと捨て去り、その過去が現在に対していかなる力をも及ぼすことができない、という過去の見方が必要なのです。

1950年6月9日、オーストラリア・キャンベラの聖ヨハネ教会で、日本聖公会を代表し、八代斌助総裁主教

の手によって竹の十字架が、教会と同教会元牧師・ロバートソン司祭に贈呈されました。同教会信徒で、戦前、パプア・ニューギニアに看護師として、キリスト教宣教のために派遣されたメイ・ハイマン宣教師の死を悼んでのものでした。1942年、日本軍によるパプア・ニューギニア占領により、333名のキリスト者が殺されましたが、そのなかの一人がハイマン宣教師であったのです。

そして、私が2年前、東アジア聖公会主教会議に参加するためにオーストラリアを訪問したことがきっかけとなり、2014年9月17日、ロバートソン司祭に贈呈された竹の十字架が、シュツアート・ロビンソン・キャンベラ教区主教から、私を通して、日本聖公会に返還されました。

ハイマン宣教師は、日本軍が占領する前に故国に帰ることができましたが、自分に敵意を持っている人たちのためにも十字架上で苦しみ、死なれたイエスの死を思い、パプア・ニューギニアの人たちと生死を共にするために残留を決断しました。

66年前、八代斌助主教が日本を代表して単身オーストラリアに渡り、この国の人たちに赦しを乞い、和解を訴え、平和を希求した姿勢を、今を生きる私たちも堅持することをここに誓い、今年の復活日にこの十字架がミカエル大聖堂に置かれました。

神の目線から自分を捕える

永遠の命にあずかることの意味は、今ある自分の姿を神の目線から捕らえ、愛に根ざして、御心に従って生きることにあるのです。

そして「そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。(マタイ25:34)』という神からの声をかけられるようになるための備えが求められると思います。